



東京オペラ

W.A.モーツァルト作曲

L.ダ・ポンテ台本

イタリア語原語上演(日本語字幕)

Le Nozze di Figaro

# フィガロの結婚

K.492

指揮・演出 ■ 小鉄 和広  
 ピアノ ■ 山口 佳代  
 衣裳 ■ 倉岡 智一  
 舞台美術 ■ 柿崎 信  
 舞台監督 ■ 中津留智博



W.A.Mozart  
L.da Ponte

伯爵夫人 ■ 竹村 真実	相島 百子
伯爵 ■ 岩美 陽大	澤地 豪
フィガロ ■ 岩田 健志	土屋 繁孝
スザンナ ■ 宍戸茉莉衣	川口 詩子
ケルビーノ ■ 上石知加子	渡谷 真衣
バルトロ ■ 金子 宏	小迫 良成
バルバリーナ ■ 辰巳真理恵	佐藤 麻耶
花娘Ⅰ ■ 市村 頼子	吉田 叶倫
花娘Ⅱ ■ 真野 綾子	福岡 真紀
両日	
マルチェリーナ ■ 富田 真理	薫人
バジリオ ■ 榛葉 晃彦	修平 (友情出演)
クルツィオ ■ 岡嶋	
アントニオ ■ 筒井	



前回公演舞台写真 撮影 ■ 山吹泰男

2020 3.10 火 11 水 両日とも  
開場17:30 / 開演18:00

日暮里サニーホール ホール

(東京都荒川区東日暮里5-50-5 ホテルラングウッド4F JR日暮里駅南口改札よりすぐ)

前売:4,500円 / 当日:5,000円 (全自由席) TOFC割引有。  
(未就学児はご入場できません。)

主催 ■ 東京オペラ 後援 ■ 東京オペラファンクラブ / アミュ



COSTUMER  
AMU



# フィガロの結婚

# Synopsis

## 第一幕

早朝。伯爵の下男フィガロは、伯爵夫人の女中スザンナとの結婚を控えているが、伯爵の彼女への邪な愛情を知る。一方、年増の女中頭マルチェリーナは、医者バルトロと組み、フィガロとスザンナの結婚を阻む共闘体制。さて、小姓ケルビーノがスザンナを訪問中、伯爵登場、ケルビーノは隠れる。次いで伯爵の食客バジリオ登場、すると伯爵も同様に隠れる。何も知らぬバジリオは、ケルビーノの伯爵夫人へのあこがれをあげつらう。それを聞き伯爵は姿を現し、ケルビーノに怒り心頭。そこにフィガロ登場、皆の面前で伯爵に結婚式即時挙行を願うも、体よく先延ばしにされる。伯爵はケルビーノを放逐すべく、その場で連隊の士官に任命。フィガロは一計を案じる。

## 第二幕

朝、寝室で伯爵夫人は追憶に浸る。フィガロとスザンナは彼女に伯爵を懲らしめる計画を提案。まずは、伯爵に夫人の貞節への邪推を煽り、混乱させ時間を稼ぐ。続いて、スザンナが逢引の約束で伯爵をおびきだし、女装したケルビーノに待ち受けさせ、現場を伯爵夫人が取り押さえる、というもの。夫人がケルビーノを脱がすと、入隊の辞令が出てくるが、封印が押されていない。そこへ邪推で煽惑を起し伯爵登場。夫人はケルビーノを衣裳部屋に隠す。夫妻のいない隙にスザンナがケルビーノを衣裳部屋から解放、彼はバルコニーから飛び去る。戻ってきた伯爵の眼前に、スザンナが涼しい顔で登場。伯爵は、やっこのことで夫人から邪推の罪を許される。

そこにフィガロ登場、伯爵に挙式の催促。その最中、庭師アントニオが、バルコニーから飛び降りて庭を台無しにした者がいると言いつつ登場。それは自分だと言いつつフィガロに、伯爵は、それでは庭に落ちていた書類は何かと迫る。フィガロは、それはケルビーノへの辞令だが、肝心の封印がないゆえ自分が預かった、と言いつつ逃れる。そこにマルチェリーナが弁護士バルトロと証人バジリオに伴われ登場、契約書をたてに、フィガロは自分と結婚すべきと主張、一同大騒ぎ。

## 第三幕

昼下がりに、夫人は、計画を変更し、自らがスザンナに変装し逢引の場所に行く決意。スザンナが伯爵に、庭での逢引を約束。しかし罠に気付いた伯爵は復讐に燃える。そこに判事クルツィオがフィガロらと登場し、「マルチェリーナに借金を返すか、それとも彼女と結婚か」と判決を述べる。ところが偶然、マルチェリーナとバルトロはフィガロの両親と明らかになり、彼らも結婚式を挙げる運びとなる。

一方、夫人は伯爵の愛を取り戻せるようにと一人祈る。夫人はスザンナに、伯爵との逢引の場所を彼に知らせる手紙を書かせる。そこへ城内の娘たちとともに女装したケルビーノ登場。と突然伯爵が現れ、いまだ入隊しないケルビーノを叱責しているとフィガロも登場。伯爵とフィガロが険悪となるその時、遠くで婚礼の音楽開始。フィガロとスザンナの結婚式が進む最中、意外にも伯爵はスザンナから恋文を受け取る。彼は有頂天となり皆に大宴会を約束、その喜びの真の理由を知らない一同は彼に感謝。

## 第四幕

夜の庭。バルバリーナの話から、フィガロはスザンナが自分を裏切ったと思ひこむ。スザンナは逢引の歌を聴かせ、彼の邪推を懲らしめる。一方、通りがかったケルビーノが、変装した伯爵夫人をスザンナと思い込み、ちょっかいを出す。伯爵も登場、愛しいスザンナ(実は伯爵夫人)をようやく独り占めするも、暗闇に潜むフィガロに気づき、消えてゆく。続いて、伯爵夫人(実はスザンナ)がフィガロの前に登場。フィガロはわざと彼女に言いよる。真に受けた彼女は逆上。頃合いを見てフィガロは、変装を見破っていたことを打ち明け、二人は仲直り。そこにスザンナ(実は伯爵夫人)とはぐれた伯爵の再登場。フィガロこそ妻の浮気相手と思ひこんだ伯爵は、彼を捕える。集まった皆が伯爵に温情を請うが、興奮した伯爵は「否」と叫ぶばかり。そこに本物の伯爵夫人が姿を現す。伯爵は初めて自らの過ちを認め、彼女にひざまずく。夫人は夫を優しく許し、皆も互いに和解、この狂おしい一日を「愛」で締めくくろうと声を合わせ、幕となる。

# Cast



10B 伯爵夫人 11B 伯爵



10B フィガロ 11B スザンナ



10B ケルビーノ 11B バルトロ



10B バルバリーナ 11B 花嫁I



10B 花嫁II 11B マルチェリーナ 12B バジリオ



クルツィオ 13B アントニオ 指揮・演出 ピアノ



10B 衣装 11B 舞台美術



10B 倉岡 智一 11B 柿崎 信



fanciulla amu (ファンチュッラ)で、一点物のドレス作りませんか?

〒167-0022  
東京都杉並区下井草5-11-18  
井萩チェリー201  
株式会社 アミュ  
TEL 03-5382-5684  
URL <http://fanciulla-amu.com>  
<http://e-amu.jp/>

